

「ふるさと納税版クラウドファンディング」を実施します
ご支援、ご協力をお願いします!

海洋生物資源学部の学生が作りだす水族館計画 ～小浜の魚の魅力をもつ～

歴史的町並みが残る小浜市三丁町において、県立大生が町屋を水族館にリノベーションし、若狭湾の多様な生物や大学で増養殖研究を行っている魚種を展示します。学生の継続的な地域活動の拠点とし、地域のにぎわい創出に貢献します。

- 募集期間/10月末まで(予定) ●寄付目標額/100万円
- ※ふるさと納税を活用した寄付のため、寄付者の実負担は2,000円となります。(注:所得取入等により控除額に上限があります。)
- 返礼品/プレオープンイベント・県立大かつみキャンパスのバックワードツアーへの招待、館内にネームプレートの掲示
- お問合せ/小浜キャンパス 企画サービス室 TEL.0770-52-6300



寄付金募集ページはこちら



新学部NEWS

「地域政策学部(仮称)」の キャンパスをアオッサ(福井市)に!

令和8年4月に開設予定の「地域政策学部 地域イノベーション学科(仮称)」のキャンパスを福井駅東口の複合ビル「アオッサ」に設置する方針が決まりました。学生のフィールド演習の拠点として企業・産業・自治体が多く集積する福井駅前にはふさわしく、街のにぎわいづくりにも寄与できるものと期待されています。



キャンパス候補地のアオッサ(写真左)

オダイバ恐竜博覧会で 「恐竜学部(仮称)」をPRしました!

3月20日(水)から5月6日(月)にかけてフジテレビ本社屋(東京)で「オダイバ恐竜博覧会2024-福井から“ヤツラ”が新幹線でやってくる!」が開催され、会場内で「恐竜学部(仮称)」の紹介を行いました。学部紹介コーナーには多数の方に来場いただき、入試や学生生活に関することや研究について説明しました。



オダイバ恐竜博覧会で学部紹介

福井駅にデジタルサイネージ広告を掲出しました

ハピラインふくい福井駅改札前にデジタルサイネージ広告の掲出を開始しました。これから様々なコンテンツを制作し、福井県立大学の情報発信を行っていきます。福井駅にお立ち寄りの際はぜひご覧ください!



「学生チャレンジスペース」で 新しいこと始めませんか?

学生会館に今年春誕生した「学生チャレンジスペース」は、学生の皆さんが作品の展示、販売、イベントなど自由なチャレンジに使えます。サークルの展示やライブなど、お気軽にご使用ください!



CS_FPU

白樫祭のご案内

福井県立大学大学祭「白樫祭」を下記のとおり開催します。皆様のご来場をお待ちしております!

- 日時 小浜キャンパス 令和6年 10月5日(土)、6日(日)
永平寺キャンパス 令和6年 10月12日(土)、13日(日)
- 内容 ステージ企画、アーティストLIVE、学科企画 ほか

詳細はこちら



海友会X
(小浜キャンパス)



学生会 X
(永平寺キャンパス)

県大コットンバッグ販売開始! 数量限定

県大オリジナルのコットンバッグ(4色)を永平寺キャンパス売店で販売開始しました。学生のアドバイスを参考に作成!普段使いやお土産にぜひお買い求めください!



各330円(税込)

県大オリジナル「五月ヶ瀬」、マグカップ、ボールペン、シャープペンシルも好評販売中!



ぜひフォロー
してください!



大学HPはこちら



FPU NEWS

Fukui Prefectural University

特別企画 学びの現場から地域へ。 県大の地域連携

新任教員の紹介



永平寺町をPRする動画作成のため、九頭竜川の鮎についてインタビューする学生の皆さん(地域社会とフィールドワークB・C)



福井県立大学
Fukui Prefectural University

No.123

2024 秋号



FPU NEWSについて
ご意見・ご要望をお寄せください。
抽選で県大グッズプレゼント!

学びの現場から地域へ。県大の地域連携

学生広報
協力スタッフが
取材しました

福井県立大学では、地域の課題に学生や教員と地域の皆さんが協力して挑戦するたくさんのプロジェクトが進行中です。地域の力と学生のアイデア、大学の研究成果が融合した県大の地域連携活動の一部をご紹介します！



授業発！地域へ広がる 越前水仙の産地を救う活動

越前水仙産地 ×
学生 + 経営学科 杉山 友城 教授

地域創生を考えよう

「MISAKI未来農園プロジェクト」は、1年次の教養ゼミから始まりました。

越前水仙の産地である越前町の上岬地区では、高齢化による水仙畑の担い手不足やイノシシなどによる獣害の問題を抱えています。そこで、学生が地域に入り、現地でのフィールドワークを通じて地域の実態を学んだり、実際に水仙の収穫や出荷作業を行ったりしました。そして、地域の方に対して新しい企画や意見の提案、プレゼンテーションを行ったこともありました。

初めは大学の授業から始まった活動ですが、現在は福井丸岡RUCK、イワタグループ、株式会社Ex.SATOYAMAと福井県立大学の4者で越前水仙の産地を再生する活動を行っています。県大では、昨年の秋から獣害の心配がない大学構内で水仙の球根を植え育てて上岬地区に戻す取り組みを始めています。また学生の提案により、廃棄されてしまう水仙を原料とした越前和紙のフラワーペーパーが作られ、試験販売されました。杉山先生は、「今後も活動を継続し、さらに地域全体を巻き込んだ大きな活動にしていきたい」と話しています。



越前水仙が原料の
フラワーペーパー



学生が球根を植え付け

学内に作った越前水仙畑

【取材】 創造農学科 酒井、経営学科 村中・吉村

学生目線で永平寺町を アピールする映像づくり

永平寺町 ×
学生 + 学術教養センター 石丸 香苗 教授

地域社会とフィールドワークB・C

授業を通して学生と一緒に、永平寺町の魅力をアピールする映像作成に取り組んでいます。永平寺町の職員の方々をお招きしてグループで質問をしたり、道の駅禅の里、農業組合法人エコファーム光明寺、永平寺門前町等永平寺町内に向いて、地域の方々にお話を聞き、地域の観察をするフィールドワークを行いました。

石丸先生は、学生が永平寺町にもっと親しみをもってほしいと考え、まだ知られていない魅力を発信したいという思いでこの活動を始めました。学生は、将来地域に貢献したい、選ばれる町になってほしい、動画編集をしたいといった思いで参加しています。この活動を通して学生は「福井に住んでいても知らなかったことを知ることができたり、地域の人々の温かさを感じられた」、「フィールドワークで地域の人と会って、永平寺町や地域の人との繋がりを持つことができた」と話しています。

完成した映像は、上映会を開催して地域の方や学生に見てもらうほか、永平寺町内の観光施設等で上映される予定です。



永平寺町内をフィールドワーク

永平寺町職員に町の魅力を聞く

【取材】 経済学科 中澤・木下・櫻谷・山下、経営学科 山本

子どもたちが楽しんで学べる 学習ツールづくり

小浜市 ×
学生 + 学術教養センター 國崎 大恩 准教授

教育社会学・教育史

子どもたちが小浜市の歴史・文化を学ぶための分かりやすい教材を作ってほしいという小浜市からの依頼を受け、國崎先生と教職志望の学生が4つの学習ツールを作成しました。

「小浜さばかるた」は小浜の歴史や郷土料理など小浜のことを幅広く学ぶことができます。さらにさばかるたはカードの裏表を変えるだけで「小浜さばかるたクイズ」も楽しめます。

テキスト「日本遺産で学ぶ若狭・小浜の歴史と文化」は、子どもたちが見やすいように文字を大きく、字体は子どもに馴染みのある教科書の字体にしました。また専門用語は、当時の服装や街並みといった用語の背景を織り交ぜるなどして、子どもがその意味をイメージしやすいように工夫しました。

さらに、「鯖電車」という若狭・小浜市の街並みが描かれたパネルの中を鯖が走る学習ツールも開発しました。この鯖電車を通じて、どんなニーズを持つ子どもたちも同じように小浜の歴史や文化にふれることができます。

これらの学習ツールは、作る学生とそれを使用する子どもたち、そして小浜市民や小浜に携わっている全ての人の笑顔のために、をモットーに開発されました。今後は、小浜市内の小中学校で、総合的な学習の時間やふるさと教育等の教材として活用されます。



小浜さばかるた

小浜市内の文化施設を取材



【取材】 生物資源学科 坂口・辻

福井県立大学の 地域連携について

北島 啓嗣 副学長 / 地域連携本部長

福井県立大学は、県民とのコミュニケーション、研究に基づく情報発信、県の企業や自治体との共同研究を通して地域連携に取り組んでいます。その窓口としての役割を担うのが「地域連携本部」であり、地域貢献のためにさまざまな活動を行っています。

そうした地域連携本部の取り組みの一つに、本学教員による研究を発信する研究シーズ集の発行が挙げられます。研究シーズ集には、多様な分野における地域の課題や解決策などを学外の読者にも分かりやすい言葉で記しています。学内の皆様は、研究シーズ集は大学内に置いてありますので、手に取ってご覧ください。学外の方は、大学ホームページから閲覧することができます。

地域連携本部として、これからも地域に支えられ、そして地域を支える地域連携をしていきたいと考えています。地域の皆様をはじめ、これからもご理解とご支援をお願いします。



研究シーズ集は
こちらから



【取材】 経営学科 佐々木・瀬野

水産業の人材育成・技術開発等に関する
四者協定を締結しました



3月26日(火)、本学海洋生物資源学部と小浜市、小浜市漁業協同組合、ふくい水産振興センターとの間で、水産業の振興に関する四者協定を締結しました。本協定は、「人材育成」「人材の雇用創出・定着への支援」「地域課題の解決に向けた技術開発・普及」「地域での実証研究や技術習得」等について相互に協力し、水産振興を図ることを目的としています。本学では、海面での養殖試験や漁業者との連携、民宿業の盛んな地区での実習等活動フィールドの増加を図る予定です。

福井市自然史博物館と
パートナーシップ協定を締結しました



7月4日(木)、生物資源学部と福井市自然史博物館との間で、環境保全に関する教育研究のためのパートナーシップ協定を締結しました。協定締結後は、カーボンニュートラル達成のための共同研究や、大学生と地域の子ども達との双方向教育プログラムを始動します。同じ研究機関でありながら異なる強みを持つ大学と博物館が、それぞれの特色を活かした共同研究を実施します。さらに、大学生による博物館の講座運営への参加、子ども達の県大研究室への訪問など双方向の交流を通して、多様な価値観に基づき地域の共有財産である環境を守る人材を育てます。

米国テネシー大学の学生が
本学でワークショップを開催しました



6月20日(木)、アメリカ合衆国テネシー大学建築デザイン学部インテリア建築学科から14名の学生が本学を訪れ、同学科のサマープログラムの中で福井県内の伝統産業の現場を訪問し、そこで学んだことを発表し、議論するワークショップを開催しました。学生による福井の伝統産業に関する発表の後、地域経済研究所の教員との意見交換が行われました。その後、ワールドカフェや英語の授業で県大の学生と交流し、楽しいひと時を過ごしました。

イネの新しい環境感知メカニズムを
発見しました



生物資源学部塩野克宏教授と角田智詞准教授は、環境植物学分野の学生と共に、湿地で育つことのできるイネの根をつぶさに研究しました。その結果、土壌に水がたまって数日後に微生物の活動によって生じる「硝酸の減少」が、水が多い環境への適応応答(根の肥大化、根の内部の通気組織の形成、酸素漏出バリアの形成)を開始する環境要因となることを世界で初めて発見しました。水に強い植物の環境適応メカニズムの理解を進めることで、気候変動による洪水・湛水に耐える畑作物の栽培や品種改良への応用が期待されます。

海藻「アカモク」の
腸内環境改善作用を解明しました



看護福祉学部/大学院健康生活科学研究科 村上茂特命教授は、海藻「アカモク」の腸内細菌に対する作用をヒトで検討し、アカモクに腸内環境改善作用があることを明らかにしました。福井県内在住の約80名の被験者(平均年齢51歳)にアカモクを3週間摂取してもらったところ、やせやすい腸内環境に改善され、善玉の腸内細菌が増加する等健康的な腸内細菌タイプの被験者が増加しました。また、便通改善や体重減少も観察されました。福井県沿岸でワカメの生育を妨げる「海の邪魔者」扱いられているアカモクですが、健康増進効果が解明された食材として今後の有効活用が期待されます。

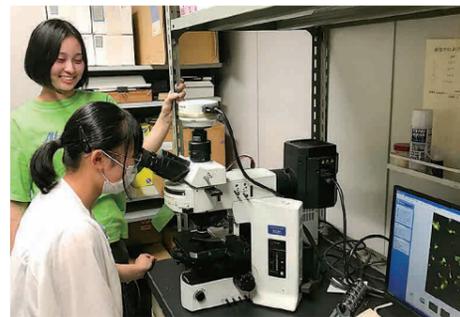
オープンキャンパス2024を開催しました



8月4日(日)、高校生や保護者の方を対象としたオープンキャンパスを開催し、県内外からおおよそ2,000の方が参加しました。永平寺、小浜、かつみ、あわらの各キャンパスでは、各学部学科が模擬授業や研究体験などさまざまなプログラムを用意し、教員や在学生が県大の魅力を伝えました。設置準備中の恐竜学部(仮称)や地域政策学部(仮称)の説明やワークショップも行われました。学生ガイドによるキャンパスツアーや座談会も行われ、参加した皆さんは先輩との交流を楽しんでいる様子でした。

『福井県立大学つぐみ賞』受賞者紹介

学術研究や課外活動等で活躍した学生・団体を表彰する「つぐみ賞」受賞者の皆さんです。



海洋生物資源学部
海洋生物資源学科2年
待井 優花さん、塚本 真央さん

小浜湾から新種と考えられる細菌株を単離し、その全ゲノム配列を決定しました。この結果を待井さん、塚本さんが共同の筆頭著者としてまとめた論文が、微生物学の国際誌「Microbiology Resource Announcements」に掲載されました!



海洋生物資源学部
先端増養殖科学科3年
辻村 咲里さん

一般社団法人日本フードアナリスト協会主催のJapan Food Selectionにおいて、辻村さんが企画・開発した缶詰「サワラのゆず醤油」が金賞を受賞しました。辻村さんは、若狭高校時代から「宇宙サバ缶」の開発に携わり、現在もより良い缶詰づくりに貢献しています。



生物資源学研究科
海洋生物資源学専攻
博士後期課程3年
エルドリン アルグエレス
Eldrin Arguellesさん

北海道大学で開催された第9回アジア太平洋藻類学フォーラムにおいて、「DNAメタバーコード解析により明らかとなったミズワタクチビルケイソウ大増殖における細菌多様性と増殖機構およびその潜在的脅威」について発表し、学生口頭発表賞(微細藻類部門で1位)を受賞しました!

同窓会からのお知らせ

同窓会には、「甲子会」「短期大学分会」「つぐみ会」があります。同窓生の皆さんから寄せられた近況をご紹介します!

Tsugumi 同窓生の近況

鳥山 昌則さん
税理士法人 とりやま財産経営 代表
(福井県立短期大学 経営学科 昭和54年度卒業)



税理士を本業として「関う税理士」を標榜し、100人の社員と3,000件を超える顧問先が繁栄し続けるシステムを日々模索しています。不動産賃貸業がその方策であると確信できてきました。自分自身で180億円を投資し、120億円の良い借入金で相続税ゼロ、年間12億円の家賃で手取り1億8,000万円を実現しました。自ら考案した「都心ホテル300万不動産投資」による安定した財産づくりと究極の節税を提案しています。皆さんと少し問い合わせてください。

県短では寮生活と中身の濃い2年間を過ごしました。青春期に恩師と友と自信と将来の夢を得た貴重な時期でした。

持田 弦輝さん
福井県庁 農林水産部 園芸振興課 主事
(生物資源学部 生物資源学科 令和元年度卒業)



福井県庁の農林業職として採用となり、1年目は園芸研究センターでウメ、ブドウ、カキの研究を行い、現在は園芸振興課 園芸振興グループに所属し、主に県内の果樹振興に関する業務を行っています。

県大の思い出としては、研究室に所属していた大学最後の1年が印象に残っています。卒業研究では、同僚と夜遅くまで残って研究したり論文を書いた日もあり正直大変でしたが、一つのことに集中した経験や研究で得た知識は、現在の仕事にも生かされています。また、研究室で同僚や先輩とバーベキューや料理を作ったのもいい思い出です。社会人になるとまとまった休暇を取るのが難しくなるため、勉学はもろろん大切ですが、遊ぶ方にも程々を入れて、貴重な学生生活を全力で楽しんでいただければと思います。

同窓会「甲子会」は設立100周年を迎えました!

甲子会は、福井県立大学のルーツである、福井県農事試験場練習生・農事修練生の卒業生により大正13年(1924年)に設立された本学同窓会です。「甲(きのえ)子(ね)の年」に設立されたことがその名前の由来です。

新任教員の紹介

経済学科

助教
岡原 直人 おかはら なおと



(専門分野)
マクロ経済学、銀行理論
(担当科目)
マクロ経済学
モデルを使って銀行を研究しています。人々・社会の動きを明らかにする楽しさを伝えていけたらと思います。

社会福祉学科

助教
藤野 真凜 ふじの まりん



(専門分野)
障害者福祉、ソーシャルワーク
(担当科目)
障害者福祉論、ソーシャルワーク実習
知的障害のある方とその家族への支援について研究しています。よろしくお祈りします。

国際センター準備室

准教授
渡邊 綾 わたなべ あや



(専門分野)
応用言語学、英語教育、会話分析
(担当科目)
英語・II
英語教師と学習者、医療者と患者のやりとりを研究しています。みなさんと様々な場でやりとりを深めていきたいです。

地域経済研究所

准教授
當麻 雅章 とうま まさあき



(専門分野)
空間経済学、応用計量経済学
自身が熱中できることを見つけ、ぜひ充実した学生生活を送りましょう。

恐竜学研究所

教授
神谷 隆宏 かみや たかひろ



(専門分野)
進化古生物学、古海洋環境学
日本海は世界でも稀な「熱帯の生物から寒冷適応種が誕生する進化の実験場」。その秘密を探る地質学・古生物学の勉強を一緒に楽しみましょう。

経営学科

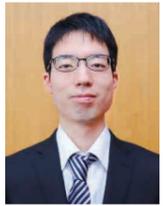
教授
早川 貴 はやかわ たかし



(専門分野)
競争戦略、マーケティング、産業政策
(担当科目)
経営戦略論
最近では地域間競争・協調と地域ブランドについて研究しています。理論が脱落する授業に努めます。

情報センター

助教
眞田 嵩大 さなだ たかひろ



(専門分野)
理論計算機科学、圏論の意味論
(担当科目)
情報基礎演習、情報科学I、プログラミングA、情報処理D
圏論と呼ばれる数学理論を用いて、安全なプログラムを実現するための研究を行っています。

地域経済研究所

教授
青木 和人 あおき かずと



(専門分野)
空間情報学、地域政策、オープンデータ
IT技術による地域協働、シビックテック活動をしています。学生の皆さん、一緒に活動しませんか。

地域経済研究所

准教授
森嶋 俊行 もりしま としゆき



(専門分野)
経済地理学、観光地理学
産業遺産等、産業観光の研究をしています。今後、福井から日本、世界の未来に資するような観光地理研究・教育を進めていきたいと考えています。

創造農学科

助教
牧野 奏佳香 まきの そよか



(専門分野)
森林科学、窒素循環
(担当科目)
植物保護学実験
森林を健康な状態に維持・管理する方法を検討すべく、窒素の森林内での循環、河川への流出を調査しています。

国際センター準備室

教授
横田 実世 よこた みよ



(専門分野)
形質人類学、温熱モデル、人間工学、職業安全
(担当科目)
英語・II
米国の産官学の様々な分野で研究に携わりました。この経験を活かして英語を支援できればと思います。

地域経済研究所

教授
フロレス 漆間 アンドレア 百合



(専門分野)
都市地域環境学、空間計画論
社会と自然の相互作用は、生活環境を形成します。人間の生活環境変容の原則原理を研究しませんか！

地域連携本部

特命教授
樋口 人志 ひぐち ひとし



(専門分野)
知的財産、技術移転
研究成果を社会に還元し企業様に活用していただく活動を進めて大学の社会貢献を高めたいと考えています。



2025年4月
恐竜学部 (仮称)



新設予定!!



特設ページ

本学関係者の著書紹介

福井県の企業に学ぶ 地方を豊かにする経営理論

北島 啓嗣 副学長 編著
(白桃書房、2024)
本書は、地方の活性化に関し、企業の営みという観点から見た時に重要な、(1)地名ブランド(2)フランチャイズ加盟店(3)ものづくり(4)中小企業(5)伝統産業などの切り口に加えて、経営理論的にも興味深い具体的な企業を取り上げ、それぞれ1章ずつを費やし掘り下げ追究する。



植物たちの護身術 被食防御の生態学

生物資源学部 角田 智詞 准教授 責任編集
(文一総合出版、2024)
動けず声も出さない植物は喰われればなし?でもよく調べると意外と食べられていないこともわかる。植物たちは、じつは巧みな護身術を駆使し、植物食動物の害を低く抑えているのだ。この本では、防御物質や形態ポディガードの利用、変化する環境に応じた対応まで、被食防御の実態と研究手法を紹介する。



実践につながる 生徒指導・キャリア教育

学術教養センター 黒田 祐二 教授 編著、
國崎 大恩 准教授 分担執筆
(北樹出版、2024)
「実践につながる」ことをテーマに、生徒指導とキャリア教育の考え方や方法をわかりやすく説明した教科書。「生徒指導提要」(2022年改訂版)に基づき、教職課程のコアカリキュラムにも対応している。特に初学者が学びを深められるようになっている。



英訳 橋本左内『啓発録』 自分を高める五つの心得

学術教養センター 森 英樹 教授 訳・解題
(彩流社、2024)
福井の幕末志士、橋本左内『啓発録』の英語版。訳者解題と英文の日本語訳付き。日英語対照研究を背景に両言語の構造・発想の違いを反映させた新訳によって、洞察に満ちた五訓「稚心を去る」「気を振る」「志を立つ」「学に勉む」「交友を択ぶ」を解説する。



はじめての地理院地図 地図学習・防災学習に使おう

地域経済研究所 青木 和人 教授 著
(古今書院、2023)
地図学習・防災学習で地理院地図を使う際のヒントやアイデアをまとめた。地理院地図はいまの地形図を見るだけでもったいない。空中写真や土地利用図などを「すぐに」閲覧でき、地形断面図やルートマップも「かんたんに」作れる。



Alternative Visions of Post-War Reconstruction: Creating the modern townscape (戦後復興のオルタナティブ・ビジョン: 近代的町並みの創造)

地域経済研究所
フロレス 漆間 アンドレア 百合 教授 共著
(Routledge、2015)
本書は、取り上げられている人物や傾向は、20世紀のアーバニズム論において見過ごされてきて、第二次世界大戦から1960年代半ばまでの都市デザインと都市計画に関する重要な批評。漆間氏は、関西地方で生み出された近世計画の言説、モデル、方法を探求し、日本の生活様式にふさわしい都市のモデルに焦点を当てている。



現代エンパワーメント経営研究 ー日本企業と台湾企業を対象にした実証分析ー

経済学部 北野 康 助教 共著
(創成社、2024)
日本企業に勤務する従業員と台湾企業に勤務する従業員を対象に、従業員を内発的に動機づける方法および内発的動機づけから創造性発揮に至るまでの過程を実証的に検証し、その成果をまとめた一冊。



つながる読書 10代に推したいこの一冊

学術教養センター 木村 小夜 教授 分担執筆
(筑摩書房、2024)
読み書きに関わってSNSでつながった様々な職種の14名が、10代に読んで欲しい「推しの一冊」を各々プレゼン。それを別の人が読んだら、どう感じるか?本で他者とつながる面白さを実感し、新感覚の読書体験が味わえる、ちくまプリマー新書の一冊。



謎とき 世界の宗教・神話

学術教養センター 松本 涼 准教授 分担執筆
(講談社、2023)
社会学者の古市憲寿氏が世界の宗教・神話について専門家に尋ねたインタビュー集。マンガ付きでわかりやすく、北欧神話からイスラーム教やキリスト教まで幅広い基礎知識が得られる。



オープンデータとQGISでゼロからはじめる地図づくり

地域経済研究所 青木 和人 教授 著
(講談社、2023)
フリーソフトQGISとオープンデータを使って、地図をつくらう!「高齢者が多く住んでいる区域を可視化して、ビジネスに活かしたい!」「市の防災担当として、浸水予想マップをつくりたい!」「社会科の授業でオリジナル地図をつくりたい!」フリーソフトとオープンデータを使うから、初心者でも安心。GISの基礎知識やデータの入手方法までしっかり解説!



Mutations paysagères de l'espace habité au Japon: De la maison au territoire (日本における居住空間の変容: 家から領土へ)

地域経済研究所
フロレス 漆間 アンドレア 百合 教授 共著
(Collège de France - Institut des Hautes Etudes Japonaises (コレージュ・ド・フランス・高等日本研究所)、2020)
本書の著者たちは、人間と自然の関係から景観に関する実践や議論を重視する。漆間氏は、1960年代の日本の都市の未来像について論じ、内務省の調査に基づく関西グループの提案に焦点を当て、これは人口の公平な分散と都市・地域の自治を促進し、都市と農村の連続性を強調する。



デジタル時代の恐竜学

恐竜学研究所 河部 壮一郎 准教授 著
(集英社インターナショナル、2024)
新発見が続出中!CT、MRI、フォトグラメトリ、3Dプリント…デジタルの力で、化石に残された謎を読み解く!●ティラノサウルスは実は繊細?●ペンギンモドキが「モドキ」じゃない?●3Dプリンターで全身骨格標本をつくる●フワイペナートルは鼻が利く?…など

